

<p>I. わしの翼が表徴しているのは、キリストの復活の力、神の命の力が私たちに適用され、私たちの恵みとなるということです： 出 19:4 あなたがたは、私がエジプト人に行なったこと、またあなたがたをわしの翼に載せて、私自身のもとに連れて来たことを見た。 イザヤ 40:31 しかし、エホバを待ち望む者たちはその力を新しくする。彼らは、わしのように翼をもって舞い上がる。走っても弱ることはなく、歩いても疲れることはない。</p>	<p>A. 聖書は力の霊について語るとき、わしをその霊の象徴として用いています。</p>		
	<p>B. 神がイスラエル人をエジプトから救い出し、シナイ山において彼らを彼ご自身にもたらした時、彼はわしのように彼らを担って、彼の翼に載せて彼らを運んだと彼らに告げました。これは恵みの言葉であって、神が彼らに対して恵みに満ちているということを彼らに知らせました。</p>		
	<p>C. 詩篇第 103 篇 5 節は、神が私たちを満たすことができるのは、私たちの若さがわしのように新しくなるためであると言っています。私たちはキリストを私たちの命とすることによって、私たちの若さをわしのように新しくすることができます。詩 103:5 あなたの生涯の最も重要なものを良いもので満たされ、あなたの若さはわしのように新しくなる。</p>		
	<p>D. 「エホバを待ち望む者たちはその力を新しくする。彼らは、わしのように翼をもって舞い上がる。走っても弱ることはなく、歩いても疲れることはない」:(イザヤ 40:31)</p>	<p>1. エホバ、すなわち永遠の神を待ち望むことが意味するのは、私たちが自分自身を終結させるということ、すなわち、私たちが自分自身を、自分の生活、自分の行ない、自分の活動と共に停止し、キリストにある神を私たちの命、パースン、置き換えとして受け入れるということです。ヘブル 12:2 私たちの信仰の創始者、また完成者であるイエスを、ひたすら見つめていなさい。彼はご自分の前に置かれた喜びのために、恥をもいとわないで十字架を耐え忍び、そして神の御座の右に座しておられるのです。</p> <p>2. そのように待ち望む者は、新しくされ強められて、わしのように翼をもって舞い上がるまでになります。彼は造り変えられた人であって、歩き走るだけでなく、あらゆる地的な妨げを超越して、天に舞い上がります。</p>	
<p>F. 主の恵み、力、強さは、行動するためであり、また私たちを覆うためです：</p>	<p>E. 私たちが何であるか、また私たちが何を行なうかは、自分自身の知恵、力、能力にしたがっているべきではなく、神の恵みによってであるべきです。なぜなら、私たちは自分自身の中でも、他のどんなことの中でも誇るのではなく、主の中でのみ誇るからです。Ⅱコリント 10:17 しかし、誇る者は主の中で誇りなさい。</p>		
	<p>1. 一方で、主の恵みは私たちが行動するための力です。もう一方で、主の力は私たちの保護であり、私たちの隠れ場です。Ⅰコリント 15:10 しかし、神の恵みによって、今の私があるのです。そして私に対する神の恵みは、無駄にはなりません。それどころか、私は彼らのだれよりも多く労苦してきました。しかし、それは私ではなく、私と共にある神の恵みです。</p> <p>Ⅱコリント 12:9 すると彼は私に言われました、「私の恵みは、あなたに対して十分である。私の力は、弱さにおいて完全に現れる」。ですから、私はむしろ自分の弱さを、大いに喜んで誇りましょう。それはキリストの力が、私の上に幕屋を張るためです。</p>	<p>a. 生き物は人のように見えますが、わしのように行動します。</p> <p>b. 二つの翼は行動のためであり、二つの翼は覆うためです。これが示しているのは、私たちに奥義的なものがあり、これが他の人たちに神聖な方の印象を与えるということです。</p>	
	<p>2. 四つの生き物の前面の顔は人の顔ですが、体はわしの体です：エゼキエル 1:11 また、彼らの顔はこのようであった。彼らの翼は上に向かって広げられ、それぞれ二つの翼は互いに連なり、二つはその体を覆っていた。</p>		
<p>II. 人の手の霊的な意義は、正常なクリスチャンが常にまさしく人のように事を行なうべきであるということです： 使徒 20:34 あなたがた自身が知っているように、この両手が、私の必要のためにも、私と共にいる人たちのためにも、供給してきました。</p>	<p>A. パウロの文書が示しているのは、彼がわしの翼を経験したにもかかわらず、彼の生活において依然として非常に人間的であり、人間的な道を取り、人間的な方法で事を行なったということです。</p>		
	<p>B. どれほど神の恵みが私たちと共にあっても、どれほど主が私たちを力づけても、私たちは人間的な方法で事を行なわなければなりません：</p>	<p>1. わしの翼の下には人の手があるべきであり、これらの手は常に働いているべきです。</p> <p>2. 私たちは主の力づける恵みの翼と人の手との両方を必要とし、人間的な方法で神と協力する必要があります。</p>	
	<p>C. 最高の人性は、神性が人性に加えられて、神聖な属性が人性の美德において表現されることです。 ピリピ 4:5 あなたがたの謙虚溫柔さを、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。</p>		
	<p>D. クリスチャンの人性は、私たちの天然の美德を指しているものではありません。そうではなく、それは、私たちの中で生き、私たちから生かし出されるキリストです。</p>		
	<p>E. 私たちはみな人間的なクリスチャンとなり、イエスの人性、すなわち復活における彼の人の命にしたがって、イエスのような人性を持つ生活をするを学ぶ必要があります：Ⅱコリント 4:10-11 絶えずこの体に、イエスの致死力が働いています。それはまた、イエスの命が、私たちの体に現されるためです。なぜなら、私たち生きている者はイエスのために、絶えず死に渡されているからであり、それはイエスの命が、私たちの死ぬべき肉体に現されるためです。</p>	<p>1. 人性を破壊することは、神がご自身のエコノミーのために創造した手段と経路とを損なうことです。</p> <p>2. 私たちは霊的になればなるほど、ますます人間的になります。</p> <p>3. 私たちがキリストを生きようとするなら、真に人間的になることを学ぶ必要があります：</p>	<p>a. 一方で、私たちは神聖な性質を持っています。もう一方で、私たちは正常な人です。</p> <p>b. 私たちが神聖な命と神聖な性質を持っているという事実は、私たちがもはや人間的である必要がないということの意味するものではありません。</p> <p>c. 私たちは、神聖な命と神聖な性質によって真に人間的な生活をする必要があります。このようにして私たちは、最高の人としての生活、すなわち主イエスのような人性を持つ生活をするようになります。</p>

<p><u>エゼキエル 1:8</u> その翼の下、その四つの側には人の手があった。その四つのは顔と翼を持っていた。</p>	<p>F. キリストが命として私たちの中へと入って来るとき、彼は永遠の命であって、神聖な命と性質を持っており、また人の命と性質を持っています。今や私たちのすばらしい救い主は、私たちの内側で命として、静かな、正常な、平常な方法で、また非常に人間的な方法で生き、行動し、動き、働いています。</p>	
	<p>G. その霊はまだありませんでした。なぜなら、イエスの栄光はまだ復活の中で現されていなかったからです。その霊は、イエスの人性を持つその霊です。今日その霊は、栄光を現したイエスの人性で構成されています。</p>	
<p>Ⅲ. 子牛の足の霊的な意義は、私たちが子牛のように歩き、真つすぐな足を持つべきであるということです。私たちは人の曲がった足にしたがって歩くのではなく、子牛の足をもって歩くべきです。</p> <p><u>エゼキエル1:7</u> その足は真つすぐな足で、足の裏は子牛の足の裏のようであり、それは磨かれた青銅のように光を放っていた。</p> <p><u>Ⅱコリント1:12</u> 私たちの誇りとするのは次のことです。それは、私たちの良心の証しするところです。すなわち、私たちはこの世にあって、神の純粋さと誠実の中で、肉の知恵においてではなく、神の恵みの中で振る舞いました。そして、あなたがたに対しては、ますますそのように振る舞いました。</p>	<p>A. 使徒パウロは、子牛の真つすぐな足をもって歩くことについて語っています。</p> <p>B. 子牛の足は真つすぐであるだけでなく、ひづめが割れ、分かれています。ひづめが分かれていることが表徴するのは、私たちがクリスチャンの歩みにおいて、神の目に何が正しく、何が間違っているかを識別する必要があるということです。</p> <p><u>レビ 11:4</u> しかし、反芻するだけのもの、あるいはひづめが分かれているだけのものは食べるべきではない。すなわち、らくだ、これは反芻するが、ひづめが分かれていないので、あなたがたには汚れたものである。</p> <p><u>ピリピ 1:9</u> ですから、私はこう祈ります。あなたがたの愛が、全き知識とあらゆる識別力において、なお一層あふれ、</p> <p><u>Ⅰコリント 2:14</u> しかし魂の人は、神の霊の事柄を受け入れません。なぜなら、彼にとって、それは愚かであるからです。また彼は、それを知ることができません。それは、霊によって識別されるものだからです <u>15</u> しかし魂の人は、すべての事柄を識別しますが、彼自身はだれにも識別されません。</p> <p>C. 子牛の足は「磨かれた青銅のように光を放って」いました。このことが示しているのは、私たちの歩みが、主によってテストされ焼かれる必要があり、輝く青銅のようになり、他の人たちを照らし、テストするということです。</p> <p><u>エゼキエル 1:7</u> その足は真つすぐな足で、足の裏は子牛の足の裏のようであり、それは磨かれた青銅のように光を放っていた。</p> <p>D. 聖書において子牛は、新鮮さ、活発、活力を表徴します：</p>	<p>H. 私たちは、神の霊をイエスの霊として経験する必要があります：</p> <p><u>使徒 16:7</u> 彼らがムシヤに来た時、ビテニヤに入って行こうとしたが、イエスの霊が彼らを許さなかった。</p> <p>1. イエスの霊が指しているのは、肉体と成った救い主の霊であり、この霊は人性におけるイエスとして、人の生活と十字架上の死を経過しました。</p> <p>2. このことが示しているのは、イエスの霊の中には神の神聖な要素があるだけでなく、イエスの人性の要素や、彼の人の生活や彼の死の苦難の要素もあるということです。</p> <p>1. 識別力を養成することは、学びと経験に基づいています： <u>ヘブル 4:12</u> なぜなら、神の言は生きていて効力があり、どんなもろ刃の剣よりも鋭く、魂と霊、関節と骨髄を切り離すまでに刺し通して、心の思考と意図を識別することができるからです。 <u>ヘブル 5:14</u> しかし、成人した者たちのためには、固い食物があります。彼らの機能は、習慣的に訓練されて、善悪を識別することができるのです。</p> <p>2. 「私はこう祈ります。あなたがたの愛が、全き知識とあらゆる識別力において、なお一層あふれ(るように)」(ピリピ 1:9)</p> <p>a. 識別力は事物を感じる能力です。ギリシャ語の「識別力」は、「鋭敏な知覚、道徳的判別」を意味します。</p> <p>b. パウロによれば、私たちは知識と識別力に満ちた思いをもって愛すべきです：</p> <p>(1) この知識と識別力はキリストご自身です。私たちがキリストを経験するとき、彼は私たちの知識と識別力、すなわち洞察力となります。</p> <p>(2) 私たちはキリストを経験すればするほど、自分の賢さによってではなく、私たちの内側に住んでいるキリストによって、ますます事柄を識別するようになります。 <u>ガラテヤ 2:20</u> 私はキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはや私ではありません。キリストが私の中に生きておられるのです。そして私は今、肉体の中で生きているその命を、私を愛し、私のためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。</p> <p>3. 私たちは倫理とキリストとを識別する必要があります。なぜなら、倫理的な教えは、キリスト、その霊、復活、新創造から出たものではないからです。<u>ガラテヤ 6:15</u> 割礼も無割礼も重要ではありません。重要なのはただ新創造です。</p> <p>4. ローマ第 8 章が啓示しているのは、事柄を識別する最上の道が、すなわち識別する秘訣が、命であるか死であるかにしたがって識別することであるということです。</p> <p>1. 子牛は若く、活力に満ち、精力に満ちています。このことは、私たちのクリスチャンの歩みが「飛び跳ねる歩み」、命に満ちた歩みであるべきであることを示しています。<u>マラキ 4:2</u> しかし、私の名を畏れるあなたがたには、義の太陽が昇り、彼の翼にはいやしがある。あなたがたは出て行って、よく肥えた子牛のように跳び回る。</p> <p>2. 私たちは、恵みを受えし神の臨在の中に生きるなら、常に新しく、新鮮であり、私たちには何の古さもないでしょう。</p>
<p>Ⅳ. 四つの生き物のように、私たちは、わしの翼、人の手、子牛の足を持っているなら、組み合わせられ、一つの団体的な実体となって神のエコノミーを完成することができます。</p>		

経験①自分自身の知恵、強さ、能力にしたがってではなく、主の恵み、力、強さにしたがって:「神の恵みによって、今の私があるのです。そして私に対する神の恵みは、無駄にはなりません。それどころか、私は彼らのだれよりも多く苦労してきました。しかし、それは私ではなく、私と共にある神の恵みです」(I コリント 15: 10)。これがわしの翼です。私たちが行なうことは何であれ、また私たちであることは何であれ、自分自身の知恵、強さ、能力にしたがってではなく、主の恵み、力、強さにしたがってであるべきです。ですから、パウロが言うように、私たちは誇るなら、主の中で誇るべきです(1:31)。私たちが誇るのは、自分自身の中で、あるいは他の何の中ででもなく、主の中でだけです。彼の力、強さ、恵みは、今日私たちにとってわしの翼です。

ビジネス・ライフ編:あなたは会社で大変な業務を遂行する時、自分の知恵、強さ、能力に従って行うのであれば、主の恵みを経験することができません。「神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強い」(I コリント 1: 25)ので、あなたは必ず主の恵みを力として取り、業務遂行において経験してください。例えば、ある業務は自分には手に負えないので、やりたくないと考えていても、主に開き、次のように祈ってください、「主イエスよ、この業務は自分には難易度が高いので、できないと思います。しかし、上司から与えられたこの業務を、主の恵みを経験する機会とします。業務を行なう時、主の御名を呼び、自分の霊を活用し、思いを霊につけて、主の恵みを私の知恵、力、能力として経験させてください。アーメン!」。

II テモテ 4:22 主があなたの霊と共におられますように。恵みがあなたと共にありますように。

②日常生活の中で自分の人の本分を果たす:ときどき若者たちは、主を追い求めているので、懸命に勉強する必要はないと考えるかもしれません。彼らは、勉強することなく、良い成績で試験に合格することを望むかもしれません。この態度は間違っています。若者たち、あなたがどれほど主を追い求め、主を愛し、主を顧慮していても、なおも勤勉に勉強する必要があります。これは、どれほど神の恵みが私たちと共にあっても、どれほど主が私たちを力づけても、私たちは日常生活の中で自分の人の本分を果たさなければならないことを意味します。例えば、私たちは人の方法で、人の原則にしたがって健康的な食物を食べるべきです。もし人の正しい方法で食わず、むしろ御使いのように振る舞おうとするなら、私たちは病気になるでしょう。私たちは、人間的な方法で事を行なわなければなりません。わしの翼の下には人の手があるべきであり、これらの手は常に働いているべきです。これは均衡がとれていることです。

中高生編:学生の本分は勉強です。あなたはクラブ活動に参加したり、友人と楽しく過ごしたりすることも必要ですが、決して本分である勉強を怠けたり避けたりしてはいけません。あなたは天使ではなく人ですので、毎日コツコツと勤勉に勉強すべきです。奇跡的に成績が急激に上がることを期待してはいけません。四つの生き物の翼の下には人の手があり、その手は絶えず人の方法で働いています。あなたは試験期間中で忙しくても、毎朝復興するために、毎朝少なくとも5~15分を使って主の御言葉を兄弟姉妹とともに祈り読みしてください。主はあなたの霊の中におられ、毎日少しずつ心の各部分に広がっていきます。主の中で成長することも、毎日の積み重ねによりますので、毎朝、必ず御名を呼び求め、御言葉を祈り読みしてください。命の成長は変身ではないので、時間がかかります。勉強において成績を上げることも、原則は同じです。人の方法で行なうことを煩わしいと考えてはいけません。なぜなら、神のエコノミーは、天使の手によってではなく、人の手によって行なわれるからです。言い換えると、あなたの日々の労苦は、主によって覚えられ、祝福されるのです。

③人間的なクリスチャンとなる:私たちはみな人間的であることを学ぶ必要があります。実は、私たちは霊的になればなるほど、ますます人間的になります。私たちがキリストを生きようとするなら、真に人間的になることを学ばなければなりません。主イエスが地上におられた時、彼は非常に人間的でした。

私たちは、なぜ私たちが受け入れた永遠の命が、神聖な性質と人の性質の命であるのかと不思議に思うかもしれませんが、それは、この命が私たちの中で、静かな正常な方法で働くだけでなく、また人間的な方法で働くことができるためです。すばらしい救い主は、私たちの内側で命として、静かな、正常な、平常な方法で、また非常に人間的な方法で働き、動き、生き、行動しています。**大学・大学院生編:**あなたは学生時代にイエスの人性を経験し、正常で人間的なクリスチャンになることを学んでください。ピリピ 4:8は次のように言っています、「最後に、兄弟たちよ、何であれ真実なこと、何であれ誉れあること、何であれ義なること、何であれ純粋なこと、何であれ愛らしいこと、何であれ好評なこと、またもし何らかの徳があり、何らかの称賛があるなら、これらのことを考慮なさい」。例えばあなたは、クラス・メイトがいじめられていたらかわいそうに思い、その人を顧みてあげるべきです。また、いじている人に対して怒りを持つべきです。「喜ぶ人たちと共に喜び、泣く人たちと共に泣く」(ローマ 12: 15)べきです。日本人は、このような人間的な感覚、人に対する正常な関心が欠けています。学校でのいじめによる自殺の原因の一つは、クラス・メイトの無関心です。しかし、あなたは救われてクリスチャンとなりましたので、イエスの人性を経験して、人間的な人になってください。言い換えると、人と共に正常に喜び、怒り、悲しむことができなければなりません。神はこのような正常な人を大いに用いることができるのです。アーメン!

④子牛の足は真っすぐで、ひづめが分かれている:私たちはみな子牛のように歩き、真っすぐなひづめを持つべきです。私たちは人の足で歩くべきではありません。人の足は良いのですが、いくらか曲がっています。人の賢さは曲がっているものです。こういうわけでパウロは、肉の知恵において、すなわち、人の賢さにおいて振る舞わなかったと言ったのです。私たちのクリスチャンの歩みは、曲がったものや賢いものであってはならず、真っすぐで率直であるべきです。私たちは四福音書を読むなら、主イエスが地上にいた時、とても真っすぐに歩まれたことを見ます。一步一步、彼の歩みは真っすぐでした。彼は子牛のひづめをもって地上を歩かれました。分かれたひづめは、私たちが主と共に歩くとき、正しいものと間違っただけを分け、清いものと汚れたものを分ける正しい識別力を必要とすることを表徴します。らくだのように割れていないひづめを持つことは、識別力のない歩みを持つことです。私たちはキリストにある信者として、神の目に何が正しく、何が間違っているかを識別することができるような歩みを持つ必要があります。

奉仕編:あなたは召会生活の奉仕において、子牛の足を持ち、真っすぐに歩み、識別力を持つべきです。真っすぐに歩むとは、不純な動機、野心、競争心などを奉仕に持ち込んではいけないということです。これらのものは、世の中では当たり前なので、奉仕においても当たり前であると考えてはいけません。召会生活とその奉仕において、純粋な心で主を追い求めるべきです。また、あなたは識別力が必要です。「この時代にかたどられてはいけません。むしろ、思いが新しくされることによって造り変えられなさい。それは、何が神のみこころであるか、すなわち何が善であって、喜ばれ、完全なものであるかを、あなたがたがわかまえるようになるためです」(ローマ 12: 2)。識別力がなければ、サタンに容易に邪魔され、あなたの奉仕は大混乱に陥ってしまいます。

376 キリストを経験する—恵みとして

1

めぐみとは御子にあり
たまわるかれご自しん;
事ぶつや環きょうでなく,
主がわが分となること。

2

受にくし, 神・人ちょう和し,
ひとにかみを得させる,
主はわがこころに住む,
これこそかみのめぐみ。

3

パロは主をめぐみとし,
すべてちりあくたとす;
「主のためにろう苦すは,
われでなく, 主のめぐみ」。

4

わがうちで主はちから,
真のめぐみ, しんらいす;
めぐみ, わがれいにあり,
みこころじょう就させる。

5

このめぐみ, 生ける主は,
ちからづけ, かえりみる;
いちずになれをしたい,
さらに享受させたまえ。

376 经历基督—作恩典

—
—

神所赐恩典, 最高的定义, 是神在子里所给的自己;
不重在事物, 赐于古或今, 乃是神自己作我的永分。

—
—

神成为肉身, 来与人调和, 为给人接受, 而将祂得着;
人藉主从神所得的恩典, 就是主自己来住我心间。

—
—

在使徒保罗, 万事如粪土, 恩典之于他, 只是神基督;
乃藉这恩典—他所经历主, 他为主劳苦, 超过众使徒。

—
—

基督在我里, 作我的能力, 乃是真恩典, 够为我赖倚;
这够用恩典在我的灵里, 时常加我力, 完成神旨意。

—
—

这恩典就是那活的基督作我的一切, 时将我眷顾。
主, 愿我认识你这真恩典, 享你作恩典, 一直的增添。

497 Experience of Christ - As Grace

1

Grace in its highest definition is
God in the Son to be enjoyed by us;
It is not only something done or giv'n,
But God Himself, our portion glorious.

2

God is incarnate in the flesh that we
Him may receive, experience ourself;
This is the grace which we receive of God,
Which comes thru Christ and which is Christ
Himself.

3

Paul the Apostle counted all as dung,
'Twas only God in Christ he counted grace;
'Tis by this grace — the Lord experienced —
That he surpassed the others in the race.

4

It is this grace — Christ as our inward strength —
Which with His all-sufficiency doth fill;
It is this grace which in our spirit is,
There energizing, working out God's will.

5

This grace, which is the living Christ Himself,
Is what we need and must experience;
Lord, may we know this grace and by it live,
Thyself increasingly as grace to sense.